

# 多胡碑(高崎市)

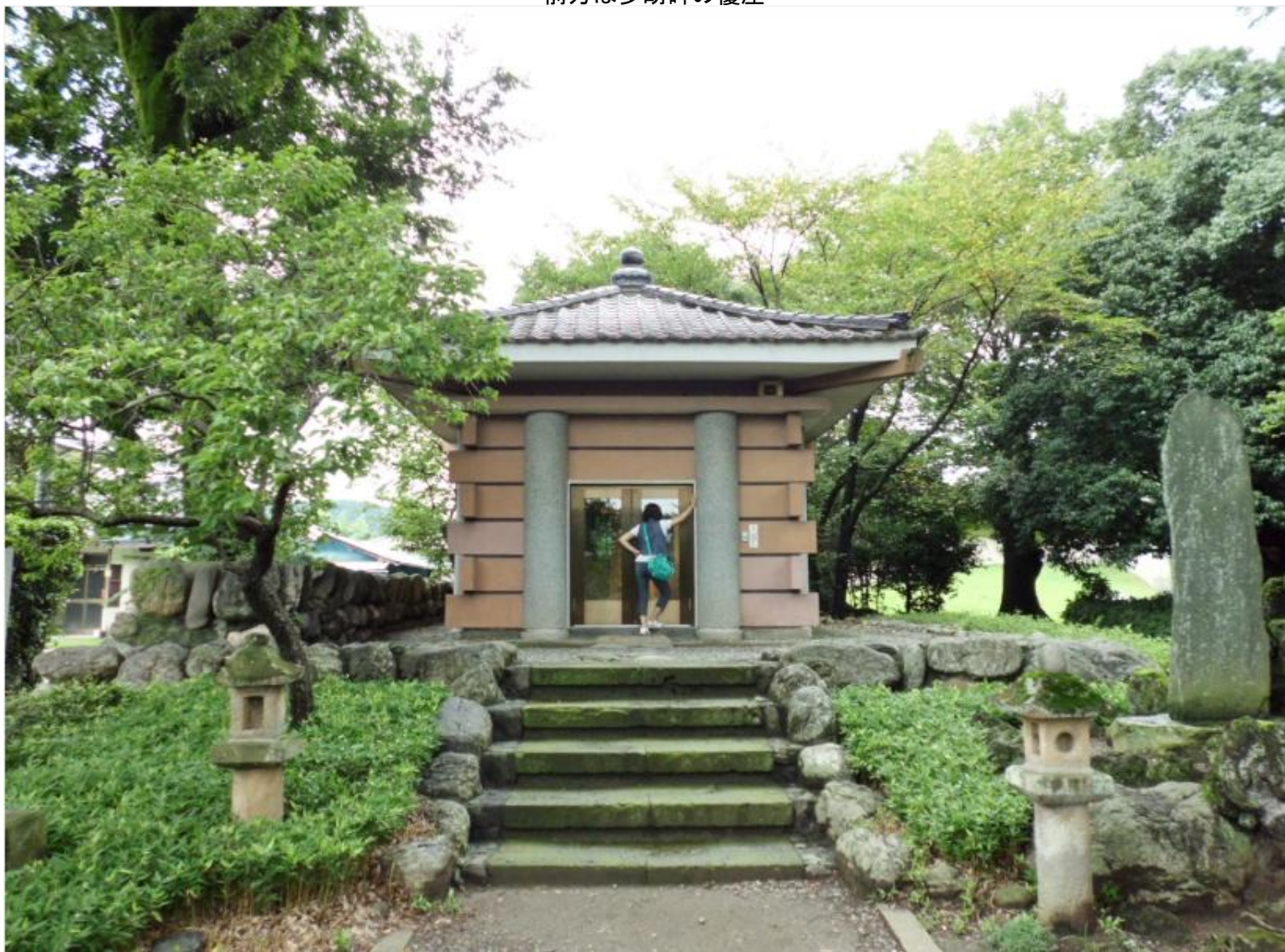
前方の「石碑の里公園」内に多胡碑がある



石柱に「史跡 多胡碑」とある



前方は多胡碑の覆屋



この中に多胡碑が保存されている



これが牛伏砂岩で造られた多胡碑





多胡碑は日本三碑で上野三碑でもある

### 特別史跡 多胡碑

多胡碑は栃木県にある那須国造碑、宮城県にある多賀城碑とともに日本三碑と呼ばれる古代の石碑である。また高崎市の山ノ上碑、金井沢碑とともに上野三碑とも呼ばれる。碑の高さは百二十六センチで、吉井町南部に産出する軟質の牛伏砂岩（通称多胡石）で造られている。

その書体は楷書体で中国の六朝風を遺すといわれており、古くより多くの書家に愛好され、六行八十字の文字の彫りも味わいあるものとして評価されている。

土地の人は多胡碑を「ひつじさま」と呼び信仰の対象としてまつり、今日まで守ってきた。また、文面に見える「羊」にちなんだ「羊太夫」の伝説は、古くから語り継がれて親しまれている。



井官行す、上野国の片岡郡・緑野郡・甘良郡  
井せて三郡の内、三百戸を郡と成し、羊に給いて  
多胡郡と成せ。和銅四年三月九日甲寅  
に宣る。左中井・正五位下多治比真人、  
太政官・二品種積親王、左大臣・正二位  
石上尊、右大臣・正二位藤原藤原（前掲歴史通史編2による）

右の碑文は、和銅四（七一一）年の多胡郡の設置について述べたもので、ほぼ同様の内容の記事が正史の『続日本紀』和銅四年三月六日の条にも見えている。

『続日本紀』の記事によって碑文を補うと、分割された各郡の里（郷）名がそれぞれ片岡郡山部（山名）・緑野郡武美・甘良（甘楽）郡織裳（折茂）・韓級（辛科）・矢田・大家であることがわかる。碑文は字数などの制約があり、『給羊』のように解釈のむずかしい語句もある。

多胡碑は当時のこの地域のありさまを今日に伝える、全国的にも稀な石碑である。



昭和初期の頃の多胡碑



昭和二十九年三月二十日指定  
平成十二年三月九日設置

文部省  
群馬県教育委員会  
高崎市教育委員会

これは多胡碑記の碑





### 多胡碑記の碑

碑は根府川石。碑文の撰てんと篆てん額がくは後の文学博士、男爵細川潤次郎（元老院議員）である。

明治十二年冬、彼が群馬県内で上野三碑を巡覧した。その際多胡碑の考証や三碑の状態も記録に残した。

書は当代日本随一の書家日下部鳴鶴ひしかべのりかくの筆。

隷書れいしょ体で優れた碑文としてたたえられている。

碑文は早くできていたが、経費の関係で、堀越文右衛門富美により大正五年（一九一六）一月に建立された。

前方は多胡碑記念館





多胡碑のレプリカが置かれている



## ..... 高崎市の至宝 — 上野三碑 .....

### ● 上野三碑とはなにか

上野三碑とは、高崎市南部地域にある3つの石碑の総称で、いずれも古代(平安時代以前)に建てられた日本有数の古碑です。国内に現存する同時代の碑はわずかに二十例ほど。このうち高崎市に三つも集中することは特筆されます。そのため、いずれも国宝と同レベルの特別史跡に指定されているのです。

### ● 上野三碑のすばらしさ

古代の文字資料は地方にはほとんど存在せず、東国の古代史は分からないことだらけです。そのなかで三碑には、当時の生々しい事実が刻み込まれ、1300年前の行政のしくみ、豪族の結婚や氏族のつながり、仏教の広がりなど、実に多くのことを教えてくれます。三碑はまさに超一級の歴史の証言者なのです。

### ● 渡来人と上野三碑

文字を用いて碑を建てる文化は、もともと中国や朝鮮半島のものであり、飛鳥時代になって日本に伝わりました。当地ではその先進文化をいち早く取り入れたのです。このことから当地域の豪族の傘下には、新来の渡来人が加わっていたと考えられます。1300年前の高崎は、国際色豊かで文化的な地域だったと考えられます。



## ..... 最古級の碑は高崎に .....

古代に建てられた日本の石碑のうち、現存するのはわずかに20例ほど(右表参照)。このうち3つが高崎市にあります。なかでも山上碑は日本で2番目に古い石碑とされています。

日本最古は、京都府宇治市にある宇治橋断碑。大化2(646)年に宇治川にかかる宇治橋を架け直したことを記念した碑です。その碑文は鎌倉時代の文書に書き写されていますが、碑自体は破断して一部しか残っておらず、肝心の年号の部分は失われています。また、年号は橋が直された年であり、碑が建てられた年とは断定できません。

このため、完全な形で残され、造立の年号が確かという点では山上碑が日本で最も古い石碑ということになるのです。

NO	名称	所在地(元は山名)	年代	種類区分
1	宇治橋断碑	京都府宇治市	大化2(646)年以降	架橋記念碑
2	山上碑	群馬県高崎市	享和(681)年	通善供養碑
3	那須国造碑	栃木県大田原市	庚子(700)年	墓碑・顕彰碑
4	多胡碑	群馬県高崎市	和銅4(711)年	建郡碑
5	超明寺碑	滋賀県大津市	養老元(717)年	記念碑
6	元明天皇降碑	奈良県奈良市	養老5(721)年	墓碑
7	阿波国造碑	徳島県石井町	養老7(723)年	墓碑
8	金井沢碑	群馬県高崎市	神龜3(726)年	供養碑
9	竹野王多重塔	奈良県羽田香村	天平勝宝3(751)年	記念塔
10	弘法石	奈良県奈良市	天平勝宝5(753)年	弘法石
11	弘法石跡歌碑	奈良県奈良市	天平勝宝5(753)年	歌碑
12	多胡碑	宮城県多賀城市	天平宝字6(762)年	記念碑
13	阿波国造碑	奈良県五條市	宝龜9(778)年	建郡碑
14	浄水寺南門碑	熊本県宇城市	延暦9(790)年	造寺碑
15	浄水寺灯籠平石	熊本県宇城市	延暦20(801)年	寄進碑
16	山上多重塔	群馬県利根市	延暦20(801)年	造塔塔
17	浄水寺寺額碑	熊本県宇城市	天長3(826)年	寺額碑
18	浄水寺如法経碑	熊本県宇城市	康平7(1064)年	如法経塔

■ 日本の古代石碑・石塔(現存するもの) ■ 和名和27古代東国7石碑20から作成



■ 古碑の分布図 ■

NO	名 称	所在地または 由来地	年 代	種類区分
1	宇治橋碑	京都府宇治市	大化2(646)年以降	架橋記念碑
2	<b>山上碑</b>	<b>群馬県高崎市</b>	<b>辛巳(681)年</b>	<b>追善供養碑</b>
3	那須国造碑	栃木県大田原市	庚子(700)年	墓碑・顕彰碑
4	<b>多胡碑</b>	<b>群馬県高崎市</b>	<b>和銅4(711)年</b>	<b>建郡碑</b>
5	超明寺碑	滋賀県大津市	養老元(717)年	記念碑
6	元明天皇陵碑	奈良県奈良市	養老5(721)年	墓碑
7	阿波国造碑	徳島県石井町	養老7(723)年	墓碑
8	<b>金井沢碑</b>	<b>群馬県高崎市</b>	<b>神亀3(726)年</b>	<b>供養碑</b>
9	竹野王多重塔	奈良県明日香村	天平勝宝3(751)年	記念銘
10	仏足石	奈良県奈良市	天平勝宝5(753)年	仏足石
11	仏足石跡歌碑	奈良県奈良市	天平勝宝5(753)年力	歌碑
12	多賀城碑	宮城県多賀城市	天平宝字6(762)年	記念碑
13	宇智川磨崖碑	奈良県五條市	宝亀9(778)年	磨崖碑
14	浄水寺南門碑	熊本県宇城市	延暦9(790)年	造寺碑
15	浄水寺灯籠竿石	熊本県宇城市	延暦20(801)年	寄進碑
16	山上多重塔	群馬県桐生市	延暦20(801)年	造塔銘
17	浄水寺寺領碑	熊本県宇城市	天長3(826)年	寺領碑
18	浄水寺如法経碑	熊本県宇城市	康平7(1064)年	如法経塔

■ 日本の古代石碑・石塔(現存するもの) ■

前沢和之『古代東国の石碑』から作成





## ..... 上野三碑はどこにある？ .....

上野三碑は、鑄川を間に挟んだ3kmの範囲にまとまっています。

### ● 山上碑・金井沢碑

山上碑・金井沢碑は、鑄川の北、観音山丘陵(岩野谷丘陵)南端の山名町にあり、いずれも谷間の斜面地に位置します。碑の内容は、ともに先祖の供養碑であるため、この地方を治めた豪族(三家氏)の墓域に立てられたものと考えられます。なお、三家氏は、この丘陵と烏川東岸の佐野地区一帯を6世紀代から支配してきた有力豪族です。

### ● 多胡碑

多胡碑は、鑄川南岸の吉井町池にあります。これは、711年に行政再編で新たに多胡郡を置いたことを記念した碑です。おそらく近くには、新設された多胡郡の役所(郡家)があったはずですが、現在は残っていません。

### ● 古代の工業地帯

多胡郡設置の後、吉井地区も山名地区も多胡郡に含まれました。この頃、観音山丘陵や吉井南部の丘陵では、新しい産業である窯業(焼き物や瓦の生産)や織物産業が盛んに行われました。当時の多胡郡は、関東でも有数の手工業生産地帯だったのです。



■ 南より俯瞰した多胡郡地域 ■ (3Dイメージはソフトを用いて作成) 凡例: ● 6世紀末から7世紀30の主要古墳

## ..... 山上碑・金井沢碑と佐野ミヤケ .....

### ● 一族の供養碑

観音山丘陵の山名地区に1.5km離れて立つ山上碑(681年)と金井沢碑(726年)。共にこの地域を治めた豪族(三家氏)が先祖供養のために建てたものです。双方とも自然石を用いた朝鮮半島の新羅の作風を示しており、碑の製作に新羅系の渡来人が関わった可能性が濃厚です。

### ● 佐野ミヤケと三家氏

山上碑には「佐野三家」、金井沢碑には「三家子□」・「三家毛人」の文字があります(□は風化して読めない字)。三家(ミヤケ=屯倉)とは、6世紀からヤマト政権が各地の経済的当地・軍事的要地などにおいた直轄地であり、佐野ミヤケは高崎市佐野・山名一带に広がっていたようです。

碑の主たちは、佐野ミヤケを現地で管理した豪族の末裔で、三家氏を名乗り、その家柄を誇ったのでしょう。二碑の間には45年の時の流れがありますが、金井沢碑に名を刻んだ三家子□や三家毛人は、山上碑を建てた長利の2～3代後の子孫だと考えられます。



■「物部私印」の文字がある銅印 ■

(矢中村東遺跡出土、平安時代)

### ● 栄光の氏族

三家氏一族は、中央の文献には登場しませんが、この二碑を刻んだことによって1300年後に名を残しました。

碑文によれば、彼らは東毛の豪族や西毛の物部氏・磯部氏などと婚姻を結び、仏教を奉じて僧を輩出し、碑を建てるなど高度に文化的な側面をもち、同時に観音山丘陵で手工業を興すなど、経済にも通じた名族であったと考えられます。



■ 佐野三家の推定範囲 ■

多胡郡も建郡に際しては渡来人が大きな役割を果たしたようだ

## ..... 多胡碑 — 多胡郡新設を祝した碑 .....

### ● 碑文は語る

山上碑・金井沢碑の所在する山名町の南西、鑄川の対岸に位置する高崎市吉井町に建つ多胡碑。この地域から産出する牛伏砂岩を用いて、朝鮮半島新羅の石碑の特徴である、磨いた切石の碑身の上に笠石(蓋石)をのせる形態を示しています。山上碑・金井沢碑と同様に、製作には新羅系渡来人が関わった可能性があります。

多胡碑は、中央政府からの命令で、上野国の片岡郡・緑野郡・甘良郡の三郡内から三百戸を割り、多胡郡が新設されたことを祝した記念碑です。建郡に際して「羊」という人物を郡司に起用したとする説が主流ですが、「羊」を方位や別の文字の略字とみなす学説もあります。

碑文の内容は、朝廷の左中弁正五位下多治比良入から上野国にあてて発行された和銅四(711)年三月九日宣旨の公文書を略記したとみられ、末尾には太政官徳積親王、左大臣石上尊(石上麻呂)、右大臣藤原尊(藤原不比等)など、政府高官の名を挙げて建郡を正統化していると考えられます。

日本の正史である『続日本紀』和銅四年三月辛亥(六日)の条には「上野国甘良郡織袋・韓級・矢田・大家、緑野郡武美、片岡郡山等の六郷を割いて、別に多胡郡を置く」とあって、多胡碑の記述と一致します。当時の規定では1郷は50戸からなるため、多胡郡の6郷の戸数と碑文の「三百戸」も一致しています。



参考ホームページ

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/info/sanpi/03.html>

<http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-2916.html>

<http://abe-sin.sakura.ne.jp/kesiki/gunma/tagohi.htm>

<http://www.kankodori.net/japaneseculture/site/015/index.html>

<http://nordeq.web.fc2.com/shiseki/tagohi.html>

<http://www.ne.jp/asahi/asamasa/shako/gunma/tako.html>

